

# 補修工事が完了した土木遺産”栄橋”

土木・環境しなの技術支援センター

土木遺産 栄橋

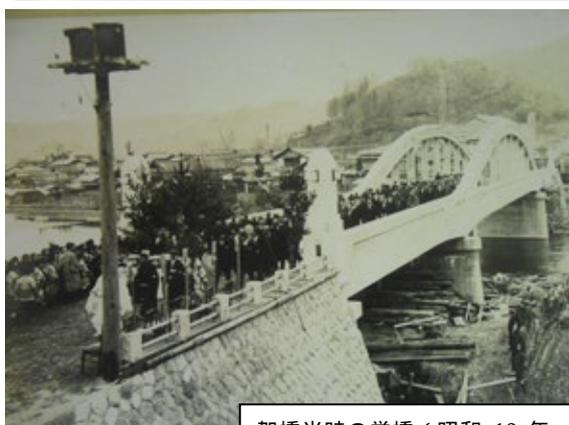
長野県には、全国にあまり見られない形式の橋がある。コンクリートローゼ桁とよばれる橋で、特に戦前に架けられた5橋は、土木学会が認定する「選奨土木遺産」になっている。

この橋梁は戦前内務省から赴任した 長野県の技師中島武の設計によるもので、木曾町の大手橋は、世界で初めてのコンクリートローゼ桁橋である。そして、佐久穂町の栄橋は、その5橋の中で最も径間が長いローゼ桁である。今回の栄橋の補修工事の実施にあたり、地域の風景に馴染んできた土木遺産として、補修技術や活用について、管理者の県と共に取り組みを行っている。

補修工事を終えた栄橋 平成25年10月



「土木遺産」の銘板が橋桁に設置された



架橋当時の栄橋（昭和13年 南牧村高見澤様提供写）

**講演会「土木遺産 栄橋」が開催されました。**

日時 平成 25 年 12 月 3 日（火）13:30～16:00

場所 佐久穂町 婦人研修センター

主催 佐久穂町、佐久建設事務所、土木環境しなの支援センター、

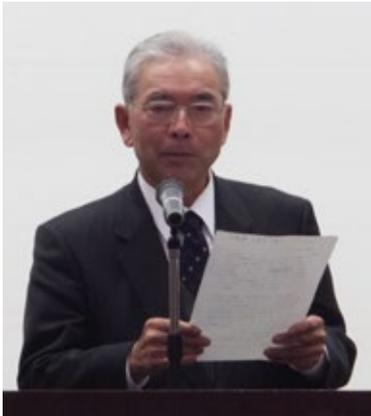
講演 「地域の歴史をつくってきた土木遺産」 講師 小西 純一信州大学名誉教授

「佐久穂町の近代と栄橋周辺のあゆみ」 講師 佐久穂町教委 小林 範昭

意見交換「補修工事を終えた栄橋を今後地域資産としての活用」

・パネラー 佐久穂町長 佐々木 定男 佐久建設事務所長 石井 杉男

畑八開発 菊池 高明 講師 小林 範昭 司会 小西 純一（敬称略）



挨拶する佐々木佐久穂町長



講演する小西信大名誉教授（土木・環境しなの技術支援センター理事）



講演する佐久穂教委の小林さん



パネルディスカッションの様子



会場はほぼ満員、熱心に講演に聴き入っていました

講演会には、地元佐久穂町の町民の皆さんが多数参加された他、県建設部、各機関の職員、建設工事や設計業務に携わっている技術者など約 200 名が参加されました。

佐久穂町の佐々木定男町長は、栄橋は重要な交通路にあり、町の歴史を伝える遺産であり、今後大切に活用していきたいと述べました。講演では小西純一信州大学名誉教授が栄橋などの土木遺産の価値と活用について、佐久穂町教委の小林範昭さんが、佐久穂町の近代と栄橋周辺のあゆみが分かり易くお話されました。その後、パネルディスカッションでは、佐久建設事務所長の石井杉男さんから補修工事の概要などの説明が、工事を担当した畑八開発の菊池さんからは、工事の様子や工夫した点などについて報告があり、栄橋の土木遺産としての継承や今後の活用について意見交換がされました。